

## 事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)
東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 母性看護学・助産学分野 (代表者名: 笹川 恵美 )
2. 研究または活動のテーマ(課題名)
エルサルバドルにおける「暴力的出産」削減に向けた戦略の構築 —ジェンダーに基づく暴力としての産科医療・分娩時ケアの実態調査—
3. 助成額
500,000円
4. 実施期間
2017年 7月 ~ 2018年 6月
5. 実施状況
2017年8月-9月 エルサルバドル渡航 エルサルバドルにおける出産の現状についての理解を深め、「暴力的な出産」を削減するための今後の活動計画について、エルサルバドル保健省および現地スタッフとともに詳細を検討した。 2017年9月-10月 中南米諸国の「暴力的な出産」に関する法令・省令の検索・レビュー・マッピングを行った。 2018年3月 第32回日本助産学会 演題「女性の権利としての出産のヒューマニゼーション—『暴力的出産』の視点から」の口頭発表を行った。 2018年6月 エルサルバドル渡航 エルサルバドルの医療従事者・産後女性を対象に、暴力的な出産に関連したインタビュー調査を実施した。
6. 事業成果と自己評価
医療の名の下に、女性たちが不要な医療な介入を理不尽な形で受けざるをえなかったり、丁寧なケアを受ける機会がなかったり、女性の人権侵害ともいえる状況、すなわち暴力的な出産状況が散見されることは珍しくなく、エルサルバドルも例外ではない。本事業では、「暴力的出産」の削減と、より質の高い出産ケアを、どのようにエルサルバドルの医療サービスに導入できるか、その方策を現地のスタッフと綿密に検討するため、この国の出産状況を観察、記録した。計画当初は5施設の視察と聞き取りを予定していたが、治安上、日本人渡航禁止地区に所在する医療施設を除いた3施設のみでの調査実施となった。視察の結果、出産中の飲食やトイレ歩行が禁止されていることや、間仕切りもない大部屋の陣痛室でベッド上排泄を強いられていたり、医療従事者に気付かれることなく、ベッド上で赤ちゃんを産みおとしてしまう女性が多いことが分かった。医療従事者へのインタビューでは、提供するケアに満足している者、もっと改善したいと思っている者の双方の意見が確認できた。また、中南米のスペイン語圏 18カ国のリプロダクティブ・ヘルスに関する法令・省令・活動等を分析した結果、過度な医療介入を避け、人間の産む力・生まれる力が最大限に活かせるような「出産のヒューマニゼーション(人間的出産)」の対極にあるものとして「非人間的な出産」、つまり「暴力的な出産」が位置づけられていることが理解できた。これらの調査結果は、エルサルバドルの出産環境の改善のための重要な基礎データとなり得ると評価でき、また結果の一部は、第32回日本助産学会で発表している。現在は、調査結果を取りまとめ、国際的な医学雑誌投稿に向けて執筆中である。